

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		15 09 05	中期総合計画主要施策番号		4-04	担当課	部・課	教育委員会事務局スポーツ課	
事業名		競技力向上事業					内線	4467	
							E-mail	sports-ka@pref.nagano.jp	
事業の概要等	事業の目的	・国体等の全国大会で優秀な競技成績を収めるために、競技団体の行う強化事業を補助したり、県内競技者の発掘・育成・強化、および練習環境の整備等を行い、競技力の向上を図り、よって県民のスポーツに対する関心を高め、スポーツ活動への参加意欲を高揚させる。							
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] ・各競技団体で優秀な成績を収めるために、強化合宿・遠征等を実施してはいるが、国体順位(天皇杯)が、平成17年以降3年連続で低下している。 ・競技力が向上している競技団体もあるが、全体的に伸び悩んでおり、特に団体競技の活躍に波が見られる。 [原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] ・各競技団体とも強化費が不足しており、ジュニアからの一貫指導体制や育成プログラム等の整備が進まない。 ・競技種目によっては、指導者の養成が遅れている。 ・練習環境の整備(特殊競技用具・施設)に十分な支援ができていない。 [課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] ・県と各競技団体及び長野県体育協会が一体となって、指導者の養成、ジュニアからの一貫指導体制や育成プログラムによる強化を推進し、国体等での競技成績を上げることに、県民のスポーツ活動への参加意欲を高揚させ、ジュニアを発掘・育成して、更なる競技力の向上を図る。							
		事業内容 ・競技者の発掘・育成・強化 国体種目40競技団体及び長野県体育協会が実施するジュニア競技者特別強化事業に対して補助するとともに、長野県体育協会が実施する「長野県タレント発掘事業」に協力する。 ・練習環境の整備 長野県体育協会が購入する高額な特殊競技用具の整備に対して補助する。							
		実施期間	S53 ~		根拠法令等				
	成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価
	強化合宿等により、まず国体順位を10位台で維持し、さらに全国で活躍する選手を育成することによって、県民のスポーツに対する関心を高め、スポーツ活動への参加意欲高揚を図る。 中期総合計画における平成24年度国体順位達成目標は10位台。		・国体(天皇杯)順位10位台を獲得する。 ・国体冬季大会スキー競技会及びスケート競技会において男女総合優勝する。 ・国体北信越ブロック突破率において、5県最下位を脱出する。			・国体順位(天皇杯)は15位と躍進した。 ・国体冬季大会スキー競技会は男女総合優勝を果たした。スケート競技会は女子が総合優勝したものの、男女総合順位は2位であった。 ・北信越ブロック突破率は、4年連続最下位であった。 ・駅伝競技の活躍が目立った。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要		
	最終予算額 (A)		千円	101,600	100,934	100,546	国庫・県単	県単	
	決 算 額 (B)		千円	101,600	100,933		実施方法	補助金 負担金	
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	101,600	100,933	100,546	歳出節制内訳等	・補助金:82,270 ・負担金:18,663	
	概 算 人件費	従事する職員数	人	0.30	0.30	0.30	(単位:千円)		
事業実績	概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	103,742	103,078	102,691			
	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績		
	国体(天皇杯)順位		位	23	15		・都道府県対抗男子駅伝で2連覇。 ・都道府県対抗女子駅伝で初の入賞。 ・高校男子駅伝初優勝。 ・ジュニア全国大会入賞者数が増。		
	ジュニア全国大会入賞者数		人(団体)	150	171		・北京オリンピックに本県関係者9名出場、陸上塚原選手が銅メダルを獲得。		
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明						
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・県民は、全国大会における本県関係選手の活躍に関心が高いことから、継続した競技力の向上が必要である。 ・事業の対象は本県を代表する競技者であり、県の関与は不可欠である。 ・継続したジュニア競技者の競技力向上に取り組むことにより、総合的に競技力の向上が図られる。		
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
課題の総括		・一部の競技団体において一貫指導体制の構築に向けた取組を始めており、今後さらに他の競技団体への拡大を推進する必要がある。 ・トップアスリートを育成するために、ジュニア競技者の人材発掘に長期的に取り組む必要がある。							